



岩手県遊技業協同組合
「日赤岩手県支部と提携した10年目となる
献血事業の推進活動」事業



岩手県遊技業協同組合
理事長
秋山照明さん



岩手県遊技業協同組合
青年部長
山田栄作さん

青年部会が周到な準備で
取り組む継続的な献血活動

献血キャンペーンで重要な役割を果たす

日本赤十字社の速報(2013年4月15日)によれば、2012年度は日本中でのべ約525万人が献血に協力し、約528万本の輸血用血液製剤を医療機関に供給したという。それによって救われた多くの生命について想いを馳せると、献血は日本に根づいた、一人ひとりができるボランティアの典型的なものといえるだろう。どんな時代においても、人間社会から病気やケガがなくなることはないので、今後も献血は、生命を守るうえで欠かせない社会貢献である。

この献血活動に、組織をあげて取り組んでいるのが、岩手県遊技業協同組合(以下、岩遊協)青年部会である。岩遊協では、真に県民に愛され、信頼される娯楽産業になるべく、「地域との共生」を合言葉に、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいるが、青年部会では献血活動を年間事業の柱のひとつに位置づけ、10年前から日本赤十字社岩手県支部と連携し、その推進に力を注いでいる。

岩手県内において赤十字血液センターが毎年、実施している「献血キャンペーン」のなかでも、岩遊協青年部会は中心的な役割を果たし、つねに目標とする数値の20%以上という実績をあげてきた。とくに活動10年目となった2012年度は、これまで以上に支部組合、ホールと一体感を持って取り組んだことで、多くの協力者が得られた。ちなみに、10年間の総数では、献血事業の実施日数101日、実施箇所111ヵ所、献血者2704人、採血本数4493



2012年度は、盛岡・奥州・久慈などの地区にある計12ホールで献血活動を実施



献血には、遊技客以外にもホール経営者や従業員、その家族も参加した

岩手県遊技業協同組合 青年部会のみなさん ご協力ありがとうございました。



平成15年度から社会貢献活動の一環としてご協力をいただいております。岩手県遊技業協同組合青年部会主催による「献血運動」が今年も県内各地区12会場でご協力をいただきました。今年は例年になく猛暑の中、362名のご参加をいただきました。お陰様で多くの患者さんに血液をお届けすることができました。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

日本赤十字社岩手県支部から贈られた手紙

本(200ml換算)となっている。

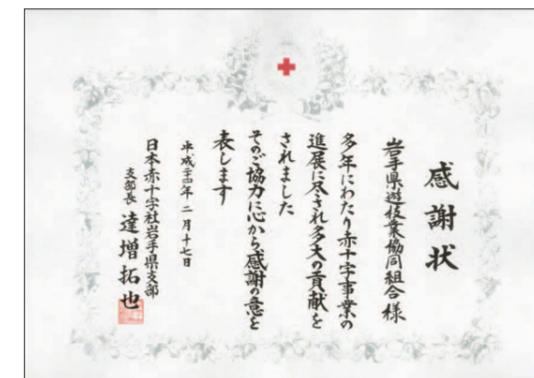
周到な準備で数多くの献血者を集める

こうした活動が継続的に行われるためには、岩遊協青年部会による周到な準備がある。まず、青年部会では、岩遊協事務局と献血事業プロジェクトチームを結成し、県内の組合員ホールに移動献血車をとめるための駐車スペースの確保を打診・確認する。そのうえで年間スケジュール(日程)表を作成し、それをもとに岩手県赤十字血液センター担当者との協議に入り、移動献血車の具体的配車計画を策定する。

献血が実施されることに決まったホールが所属する支部組合では、実施日を地区内の各ホールに周知し、動員計画を進めると共に、ポスターなどの掲示やチラシの配布などによって、広報やPR活動を展開する。献血当日には、実施ホールだけでなく、当該地区内の各ホールの経営者、従業員、その家族、地域の各種団体関係者、遊技客などが協力して、献血に積極的に参加している。

2012年度は5月から10月にかけて、盛岡・奥州・久慈・花巻・遠野・二戸・一関・北上地区にある計12ホールで献血活動が実施され、その結果362名の献血者があった。遊技客にも献血者がいるということは、それだけ、この活動が地域に浸透しているということの証しでもあるが、10年間にわたる地道な継続が、その基盤にあることは間違いない。

こうした努力に対して、2012年2月には、日本赤十字社岩手県支部長(岩手県知事)から感謝状を、また同年7月には、「献血推進団体等に対する厚生労働大臣表彰及び感謝状伝達式並びに岩手県知事及び日本赤十字社岩手県支部長感謝状贈呈式」において、岩手県知事および日本赤十字社岩手県支部長連名の感謝状を贈られている。



日本赤十字社岩手県支部から感謝状が贈られた